

2021 年 10 月 25 日

『「小学生向けラグビー普及啓発事業」 ～初めてのラグビーボール体験教室～』 実施レポート

開催日時：2021 年 10 月 13 日（水）10 時 50 分～11 時 35 分

場所：神戸市立御蔵小学校校庭

参加者：小学生 2 年生 30 名

指導者：NPO 法人 SCIX「SCIX ラグビークラブ」

高木聡・武藤規夫・森田慎也コーチ

内容：

神戸市内の小学校低学年を対象とした「初めてのラグビーボール体験教室」。神戸市によるラグビー W 杯 2019 神戸開催のレガシー創出事業の一貫として、昨年度より SCIX がお手伝いさせていただいている、新たなラグビー普及活動です。今期もたくさんの応募があり、その中から抽選で決まった小学校で開催させていただく運びとなりました。

今回お邪魔したのは昨年創立 100 周年を迎えた神戸市立御蔵小学校。先生のおひとりが学生時代からラグビーファンだったことから、「初めてのラグビーボール体験教室」の案内を見て、応募に至ったのだとか。今回のレポートでは、去る 10 月 13 日、スポーツ日和の清々しい秋晴れの中行われた「初めてのラグビー体験教室」の様子をお届けします。

10 時 50 分の授業開始前の休み時間にも運動場でドッジボールを楽しむ姿が見られ、活発な雰囲気がうかがえる御蔵小学校の子どもたち。チャイムが鳴り、高木コーチの呼びかけで集合。「一体どんなことをするんだろう？」とワクワクしている様子が、子どもたちの表情からもうかがえました。

はじめに、今回の指導にあたる講師陣、高木コーチ、武藤コーチ、森田コーチの 3 人の自己紹介を行い、その後、高木コーチから「ラグビーを見たことのある人？」との質問がされました。「はい!!」と元気に手を挙げる子どもたち。この反応は間違いなく 2019 ラグビー W 杯日本大会の影響によるところ



ろが大きいでしょう。日本代表チームの活躍はもちろんのこと、ラグビーの競技特性でもある「One for all. All for one（みんなは 1 人のために、1 人はみんなのために）」という言葉で表現されるラグビーの犠牲的精神や、ゲームが終わった瞬間には、敵も味方もなくなるという「ノーサイド精神」が老若男女に感動を与えたことも、子どもたちが

知るに至った要因と言えらると思います。

一方で、「ラグビーボールに触ったことのある人？」という続く高木コーチの質問に、挙がった手はわずか……。ラグビーの認知度は高まっているものの、実際に体験する機会や環境の少なさを物語っていると言えるでしょう。今回の「初めてのラグビーボール体験教室」がまさにラグビーボールに触れる初めての機会となる子どもたちはもちろん、これまでにラグビーボールに触ったことのある生徒



にも、これを機にもっとラグビーに興味を持ってもらおうと、SCIX ラグビークラブのコーチ陣が時間の限り楽しいメニューを繰り上げます。

まずは、3 グループに分かれ、それぞれのコーチの指示に従いウォーミングアップ。準備体操をし、その後は早速ラグビーボールを使っていきます。円になってボールを隣の人にパス。それに慣れると次は、パスされたボールをキャッチする前

に1回手拍子。1回手拍子でキャッチできた人は2回手拍子をするといった具合に、徐々に難易度をあげたメニューがそれぞれのグループでリズムよく展開されます。一回でできる人、なかなかできない人、さまざまですが、しばらくすると自発的に「もうちょっと広がり、その方がやりやすい！」と声をかける姿や、できないお友達にアドバイスをする姿、後ろから手を持ってサポートしようとする



姿がそこここに見られました。また、手拍子をするタイミングがうまく掴めない子は、発想の転換で、始めから何度も手拍子を繰り返しキャッチするという策を編み出していました。誰に言われたわけでもなく、自ら考え、行動し、課題をクリアしようとする彼らの姿、発想はとても自由で、ラグビーにも通じる、ラグビーをする上で必要不可欠なものでもあります。また、子どもたちの能力、

可能性は無限ということを思い知らされる場面でもあります。

ラグビーボールにも慣れたと思われるタイミングで、再度高木コーチの号令で集合。次なるメニューの説明が高木コーチと森田コーチによって行われます。グループごとに一列に並び、ボールを後ろ



の人にパスをしていくというもの。ただし、ボールは足の股を通した次は頭越しに、と上下交互にパスを繰り返していかないとはいけません。パスを

終えた人は列の一番後ろに並び、どのチームが一番早くゴールラインにたどり着くかを競います。

ボールを落したり、上と下の順番を間違えた場合は最初からやり直しという厳しいペナルティも。

「よーい、スタート！」の合図で一斉にボールが後ろに運ばれます。上下に身体を曲げ伸ばししつつ、楕円球をうまく扱わないといけないので、簡単なようで意外と難しいこのメニュー。単純な動き、単純なゲームのようで、実はしっかりとしたコーディネーショントレーニングの要素も含まれています。さらに、前後のお友達との息も合わさないといけないので、ラグビーと同様に相手を思いやる気持ちも大事になってくるわけです。「もっとこうしよう、ああしよう」と指示を出す声を含め、各チーム我先にと大きな声が飛び交います。高木コーチから順位を発表され大喜びする1位チーム。2位、3位のチームの頑張るも称え、みんなで拍手を送ります。

次なるメニューはラグビーボールを使った鬼ごっこ。3人のコーチが鬼。ボールを持っている鬼にタッチをされたらアウト。アウトになった人はコートの外で応援。どこまで逃げ切れるか？最後まで生き残れるのは一体誰か？というゲーム。元神戸製鋼ラグビー部・神戸製鋼コベルコスティーラーズ(現・コベルコ神戸スティーラーズ)のトッププレイヤーが自在にパス交換し、追いかけてくる…想像しただけでも迫力満点のラグビー鬼ごっこですが、子どもたちも負けてはいません。コートの線ギリギリのところまで広がり、鬼の挙動に敏感に反応し、逃げ惑う子どもたち。次々と鬼にタッチされ、脱落者が外から声を張り上げて応援する姿も印象的でした。そんな中、セブンズラグビー(7人制ラグビー)の現役プレイヤーでもある森田コーチのステップに、負けじと対峙する俊足女子。最後はあえなく捕まりましたが、その勇姿はまさに「かっこいい！」の一言です。最後



の一人となったお友達には、この日最大の大声援が飛び、ラグビー鬼ごっこはこれまでの体験教室で史上最高の盛り上がりを見せました。終了後も、早々に捕まった悔しさと楽しかったという思いから、

「もう一回やって！お願い！」「もう一回やろう！」と子どもたちからアンコールの声が飛び交うほどでした。

そして、この日最後のメニューは、ラグビーボールを使った「だるまさんが転んだ」。高木コーチと森田コーチがボールを投げ、ボールが宙を舞っている間に歩を進め、ゴールラインに到着した人から抜けていくというもの。前年度は、高木コーチにタッチできたら OK というスタイルでしたが、コロナ禍ということを鑑みて、今年度はこのような形で行なっています。

通常であれば、「だるまさんが転んだ～」と鬼が叫んでいる間は動くことができるという昔ながらの遊びですが、ボールが浮いている間だけ動



けるというオリジナルの「だるまさんが転んだ」。ボールが宙を待っている時間を予測する能力や、空間認識能力が必要になるのと同時に、ピタッと止まる体幹や、どこまで進むのか、止まるのかという判断力も要します。時には、ボールを投げたフリをする高木コーチと森田コーチのフェイントに翻弄されるシーンも。ペナルティを犯すと最初のスタートの位置から再スタートしないといけないので、



フェイントに騙されないように慎重に進む姿も見受けられ、見ているだけでも楽しめるゲームです。

「だるまさんが転んだ～」の声を繰り返し、全員がゴールラインを超え、全メニュー終了。全員集合し、高木コーチが「楽しかった人～？」と聞くと、一斉に「はい！」「はい！」と高く手が挙がりました。代表して高木コーチ

から感謝の言葉を述べ、これからもラグビーに親しんでもらうよう、小学生用ラグビーボール（3号球）を5個をプレゼント。恒例の全員集合の記念写真を撮影し、解散した後も、教室に帰らず、「鬼ごっこしよう！」「もう一回鬼ごっこやって～！」という子どもたちのリクエストに、高木コーチと森田コーチが対応。心から楽しんでいる様子の子どもの姿に、今回応募をしてくださった先生も「みんなほんまに楽しそう、すっかりラグビーにハマりましたね！」と嬉しそうに仰っていました。

2019 ラグビーW杯のレガシー事業として、昨年度からスタートした「初めてのラグビー体験教室」



ですが、今後も継続して開催し、子どもたちの健康増進と同時にラグビーの普及に努めていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。また最後になりますが、この場をお借りしてお礼を申し上げます。神戸市立御蔵小学校の先生方、児童の皆さまご協力ありがとうございました。



(レポート／中野里美)